

## 「いつまでもわが家で暮らしたいをささえる」 ～支える人@訪問看護～



### ◆プロフィール◆

神 美智子

宇城総合訪問看護センター 管理者

看護師/主任介護支援専門員

日頃運動不足なので、休みの日には散歩を兼ねた  
ウインドウショッピングに出かけています。

訪問看護は、在宅で、自分らしく生きることを支えます。  
対象者は乳幼児から高齢者までの病気や障がいを持った人です。  
その人らしい療養生活を送ることが出来るように看護師等が  
ご自宅などに訪問し看護サービスを提供します。  
訪問看護を利用するには、かかりつけ医師の指示書が必要になります。

ここからは実際の訪問看護で支援を行った事例を紹介します

### 一人暮らしのがんの末期でも我が家で暮らした事例

一人暮らしの高齢女性、がんの末期で入院中でした。余命 1~2 か月と医師より宣告され、「家でやりたいことがある」と病院を退院されました。

そこで、近くに住む息子さん夫婦の協力のもと、訪問看護・訪問介護（ヘルパー）・通所介護（デイサービス）を利用し在宅生活が始まりました。

訪問看護のサービス内容は、体調の確認・薬の準備・入浴のお手伝いなどでした。

退院されたときは、痛みはありましたが、歩くことができていた為、大好きな畑仕事を毎日されていました。私たちが訪問すると収穫したばかりのキュウリやナスなどの野菜を「持って帰って」と嬉しそうに渡されました。

その後、徐々に体力が落ち、歩くことも困難となってきましたが「いつお迎えがきてもいい」と話されていました。

そして、5か月間、自宅でゆっくり過ごされました。

最後は体力の限界を感じ入院を希望され、約 2 週間後、穏やかな表情で天寿を全うされました。

## 入退院を繰り返していた人の入院回数が減った事例

高齢の夫婦二人暮らしの女性。呼吸器の病気があり、薬を忘れずに飲む必要がありましたが、高齢でもあり、ついつい飲み忘れていました。

病気の症状が出て「これくらい大丈夫」と過信され、病院を受診した時には症状が悪化しており、2～3か月おきに入退院を繰り返していました。

退院する時、病院の相談員の方から「訪問看護を利用して薬がきちんと飲めるように手伝ってもらいましょう」と助言があり、週2回、訪問看護を利用されることになりました。

お薬カレンダーを利用し薬がきちんと飲めるようになったことと、症状が軽いうちに受診される様になり、約1年入院することなく、在宅で暮らされています。

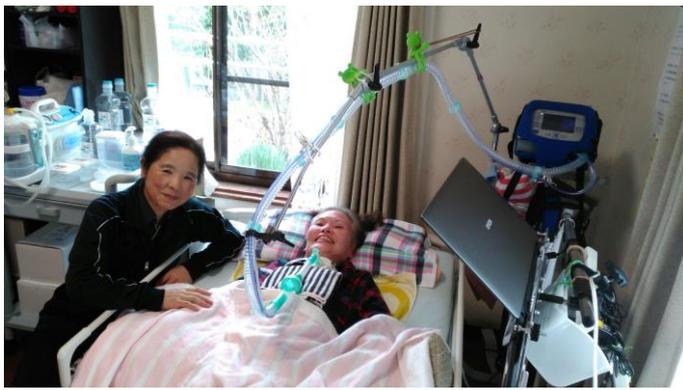
お薬カレンダーの一例です。



この2つの事例のように  
「いつまでも我が家で暮らしたい」  
という利用者様の気持ちに私たち訪問看護師がほんの少しでもお手伝いできたらいいなと思います。

訪問看護は、それぞれのかかりつけ医師、担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）、通所介護（デイサービス）、訪問介護（ヘルパー）などの在宅サービス事業所とも連携を取りながら、安心して在宅生活を送ることができるようサポートします。

他にもこんなご利用者様がいらっしゃいます。



訪問看護を月曜日～土曜日まで利用し、人工呼吸器を装着して自宅で過ごしておられる、笑顔の素敵な A さんです。

※事例の内容とは直接関係はありません



腎臓の病気で週2回訪問看護を利用して約12年。いつもは冗談も出ますが、今日は緊張気味の B さんです。

※事例の内容とは直接関係ありません